

作成日 2000/12/21

改訂日 2018/10/01

安全データシート

1. 化学物質など及び会社情報

製品の名称： ムシュゲンD-S
 製品コード： 00097-01
 会社名： 無臭元工業株式会社
 住所： 東京都足立区江北2-8-6
 電話番号： 03-3890-9156
 F A X 番号： 03-3890-6779
 e-mail support@mushugen.co.jp
 推奨用途および使用上の制限
 使用用途： 脱臭剤
 使用上の制限： 用途以外には使用しない

緊急連絡電話番号 (平日昼間)： 03-3890-9156
 (休日、夜間)： 080-3599-4957

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性・引火性ガス：	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール：	分類対象外
高压ガス：	分類対象外
引火性液体：	分類対象外
可燃性固体：	分類できない
自然発火性液体：	分類対象外
自然発火性固体：	分類できない
自己反応性化学品：	分類できない
自己発熱性化学品：	分類できない
水反応可燃性化学品：	分類できない
有機過酸化物：	分類対象外
支燃性・酸化性ガス類：	分類対象外
酸化性液体：	分類対象外
酸化性固体：	分類できない
火薬類：	分類対象外
金属腐食性物質：	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性（経口）：	分類できない
急性毒性（経皮）：	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）：	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）：	分類対象外
急性毒性（吸入：粉じん）：	分類できない
急性毒性（吸入：ミスト）：	分類対象外
皮膚腐食性・刺激性：	区分1
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	区分1
呼吸器感作性：	分類できない
皮膚感作性：	分類できない
生殖細胞変異原性：	区分2
発ガン性：	区分1A
生殖毒性：	分類できない
特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）：	区分2（神経系、呼吸器系）、区分3（気道刺激性、麻酔作用）
特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）：	区分1（呼吸器）
吸引性呼吸器有害性：	分類できない

環境に対する有害性

水生環境急性有害性： 分類できない

水生環境慢性有害性： 分類できない



注意喚起語： 危険

危険有害性情報： 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
 遺伝性疾患のおそれの疑い / 発がんのおそれ
 臓器の障害のおそれ/長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害
 呼吸器への刺激のおそれ / 眠気またはめまいのおそれ

注意書き

予防策： 使用前に取扱説明書を入手すること。
 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

対 応： 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 直ちに医師に連絡すること。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

保 管： 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 施錠して保管すること。

廃 棄： 内容物／容器は国際／国／各自治体の規則に従って廃棄すること。

国/地域情報：

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物

成 分	含有量 (wt%)
水酸化カルシウム	9.2
結晶質シリカ	≤16
通性嫌気性微生物群	
担持体	
好気性微生物群	
無機塩類	

4. 応急措置

- 吸入した場合： 被災者を直ちに新鮮な空気のある場所に移し、安静にし、医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合： 直ちに多量の水で付着部をよく洗う。炎症を起こしたり、刺激が続くようであれば、医師の手当てを受ける。
- 目に入った場合： 直ちに清浄な水で15分以上洗眼した後、専門医の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合： 水でよく口の中を洗浄し、多量の水または牛乳を飲ませて吐き出させる。速やかに医師の手当てを受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状： 特になし
- 最も重要な兆候及び症状： 特になし
- 医師に対する特別注意事項： 特になし

5. 火災時の措置

- 消火剤： 水、粉末、二酸化炭素
- 使ってはならない消火剤： 特になし
- 火災時の特定危険有害性： なし
- 特定の消火方法： 不燃物なので、包装容器、周辺の可燃物の燃焼を抑制する。消火用水を直接製品にかけた場合には、製品が溶けて排水がアルカリ性になるので、排水の中和処理が必要となる。
- 消火を行う者の保護： 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置： 作業の際には必ず保護具を着用する。
- 環境に対する注意事項： 流出した製品が高濃度で河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
- 回収・中和： 飛散したものは、空容器に回収し、残りは大量の水で洗う。注水により溶解アルカリ性液を生じるので、酸により中和処理を行ってから流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材： なし
- 二次災害防止策： なし

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策： 取り扱いは換気の良いところで行う。吸入、接触を避けるため、適切な保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気： 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
- 安全取扱い注意事項： 手洗い、洗眼等の設備を設け、取扱い後にうがいをし、手、顔等をよく洗う。酸との接触を避ける
- 接触回避： 「10. 安定性及び反応性」を参照。
- 保管
- 技術対策： 特になし
- 保管条件： 直射日光、湿気を避け、密栓して冷暗所に保存する。吸湿して固結する場合があるため、水濡れに注意する。酸とは隔離する。
- 混触危険物質： 「10. 安定性及び反応性」を参照。
- 容器包装材料： 特になし

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度：	酢酸イソブチル 50ppm、E=3.0/(1.19Q+1) E:管理濃度(mg/m ³) Q:当該粉じんの遊離けい酸含有率(%)
許容濃度：	酢酸イソブチル 100ppm 532.5 mg/m ³ 、吸入性結晶質シリカ 0.03 mg/m ³
設備対策：	局所排気装置及び目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
保護具	
呼吸用保護具：	防塵マスク
手の保護具：	ゴム手袋
眼の保護具：	ガラス又は透明樹脂ゴーグル型
皮膚及び身体の保護具：	保護衣

9. 物理的及び化学的性質

形状：	粉体
色：	灰褐色
臭い：	微発酵臭
pH：	8.0以上(10%aq、20℃)
融点・凝固点：	
沸点、初留点および沸騰範囲：	データなし
引火点：	なし
爆発範囲：	なし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度(空気=1)：	データなし
比重(密度)：	0.74±0.05(20℃)
溶解度：	スラリーを形成
n-オクタノール/水分係数：	データなし
自然発火温度：	データなし
分解温度：	データなし
臭いのしきい(閾)値：	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)：	データなし
燃焼性(固体、ガス)：	データなし
粘度：	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性：	吸湿性有り
危険有害反応可能性：	自己反応性なし。
避けるべき条件：	火気、高温物との接触を避ける。
混触危険物質：	酸性物質、金属類との接触を避ける。
危険有害な分解生成物：	通常条件ではなし
その他：	容器材質としてアルミニウム、亜鉛等の金属は腐食性されるので使用しない。

11. 有害性情報

急性毒性(経口)：	データなし
(経皮)：	データなし
皮膚腐食性・刺激性：	分類される成分の区分、含量から推定し、区分1とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性：	分類される成分の区分、含量から推定し、区分1とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	データなし
生殖細胞変異原性：	分類される成分の区分、含量から推定し、区分2とした。
発ガン性：	分類される成分の区分、含量から推定し、区分1Aとした。
生殖毒性：	データなし
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)：	分類される成分の区分、含量から推定し、区分2(神経系、呼吸器系)、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)：	分類される成分の区分、含量から推定し、区分1(呼吸器)とした。
吸引性呼吸器有害性：	データなし

1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害性：	データなし
水生環境慢性有害性：	データなし
残留性、分解性：	データなし
生体蓄積性：	データなし
土壌中の移動性：	データなし
他の有害影響：	特になし
環境基準：	データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者に委託処理する。空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に事業所系廃棄物又は産業廃棄物として処理する。

汚染容器及び包装： 同上

1 4. 輸送上の注意

国連分類：	該当なし
品名：	該当なし
国連番号：	該当なし
国内規制：	規制されない
容器等級：	
輸送の特定の安全対策及び条件：	容器が破損しないように水濡れや乱暴な取扱いを避ける。酸との混載はなるべく避ける。

1 5. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法
(P R T R法)： 該当なし

労働安全衛生法：	通知対象物質	結晶質シリカ	≤16w/w%
	通知対象物質	水酸化カルシウム	9.2w/w%
	表示対象物質	結晶質シリカ	≤16w/w%
	表示対象物質	水酸化カルシウム	9.2w/w%

毒劇物取締法：	該当なし
消防法：	該当なし
水質汚濁防止法：	該当なし

海洋汚染防止法： 施行令別表第1有害液体物質 (Z類)

船舶安全法： 該当なし

航空法： 該当なし

港則法： 該当なし

1 6. その他の情報

この情報は新しい知見に基づき改訂されることがあります。ここに記載された情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。すべての化学品には未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行って下さい。

記載内容の問い合わせ先 無臭元工業株式会社 研究室
東京都足立区江北2-8-6
TEL 03-3890-9156 FAX 03-3890-6779

- 引用文献
- 1) JIS Z 7253 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)
 - 2) 化学品の分類および表示に関する世界調和システム (GHS)
 - 3) 日本産業衛生学会「許容濃度の勧告」
 - 4) 化学工業日報社「15308 の化学商品」

危険有害性の分類項目 (該当法規)

* 爆発性物質 (火薬類取締法)	* 禁水性物質 (消防法・船舶安全法・安衛法)	* 自然発火性物質 (消防法・船舶安全法・安衛法)
* 高圧ガス (高圧ガス保安法)	* 酸化性物質 (消防法・船舶安全法・安衛法)	* 急性毒性物質 (毒劇法・船舶安全法・安衛法)
* 引火性液体 (消防法・安衛法)	* 自己反応性物質 (消防法・安衛法)	* 腐食性物質 (船舶安全法・安衛法)
* 可燃性固体又は可燃性ガス (消防法・安衛法)	* その他の有害性物質 (化審法・安衛法)	

更新履歴：

- 2012/09/14 『8. 暴露防止及び保護措置』の作業環境測定基準の改正による記載の変更。
- 2015/07/01 『15. 適用法令』労働安全衛生法の更新。
- 2015/07/01 『9. 物理的及び化学的性質』の「比重」を変更。
- 2015/07/01 『9. 物理的及び化学的性質』の「pH」を変更。
- 2018/10/01 『2. 危険有害性の要約』『3. 組成及び成分情報』
『8. 暴露防止及び保護措置』『15. 適用法令』の記載変更。

補足情報：

弊社安全データシート(以下SDS)は、使用する原料のSDSおよびNITEなどの公開情報に基づき危険有害性等の区分を規定している為、製品によっては、長期飲用による影響など、通常の使用用途ではあり得ない特殊条件下での有害性情報も含まれます。そのため、本SDS内に規定する使用用途を逸脱した特殊条件下における情報を含む場合には、補足としてNITEなどが公開する分類根拠等の情報を合わせて揭示致します。本SDS内容と合わせてご参照下さい。

※結晶質シリカの発がん性 区分について

本製品の原料に使用している天然鉱物中にはシリカが含まれる。シリカは結晶質、非晶質に分類され、結晶質シリカについてIARCでは『クリストバライト型の形状を有する結晶質シリカ粉じんの吸入ばく露によりヒトで肺がんの発症リスクが増加するのは十分な証拠がある』としている。天然鉱物中には一定割合の結晶質シリカが含まれると考えられるが、天然鉱物中の結晶質シリカの形状、含有割合を特定できない為、考えうる最大配合量で発がん性区分は判定している。